

勝間和代&アン・ディクソン ジョイント講演会

勝間和代&アン・ディクソン ジョイント講演会

「社会変革とアサーティブネス」

- 日付：2009年11月21日（土）
- 時間：1日目 10：00～17：00 2日目9：30～16：30
- 会場：ホテルスプリングス幕張（千葉県幕張市）
- 参加人数：496人



さる2009年11月21日に幕張にて、「勝間和代&アン・ディクソンジョイント講演会～社会変革とアサーティブネス～」が開催されました。全体で3時間の講演でしたが、前半は一人50分ずつお話いただき、休憩をはさんだ後半は会場からのご質問にお二人がお答えするというかたちをとりました。アンさんはアサーティブネスの歴史と奥深さ、そして30年間アサーティブネスにコミットしながら信念として持ちつづけている「対等性」について、静かに力強くお話をくださいました。一方、勝間さんはアンさんとは対照的に、非常にパワフルにスピード感をもって、アサーティブネスの持つ「主体性」と「自己決定・自己責任」の部分をご自身の社会変革の実践とともにお話くださいました。

とても対照的なお二人でしたが、私たち一人ひとりが自分を信じ、主体性を持ち、自分の行動に責任を持ちながら、他者と対等にかかわり、しっかりと発言しつつ社会にかかわるといふ視点については、共通していたのではないかと思います。

参加された方々の感想

- 性別も立場も関係なく「アサーティブネス」を大切にすることで、どんな難しい問題課題も乗り越えられる、社会を豊かにすることができる、という内容に感銘を受けました。

- タテ関係の力と個人の内側の力が共存できるということ、そしてタテ関係の中でも会話の中に対等性を持つてのぞむことができるという、希望が持てました。嬉しかったです。
- 対等性が社会のシステムの中で損なわれていったということ。そこを変えていくには一人ひとりの行動が大事であるということ。話を聞いていくうちに自分にもできると思えました。小さなところから実践していきたいと思います。
- 講演者のお二人はアサーティブネスという同じ言葉を軸に活動されてきているのに、見事「静」と「動」の印象のお話しぶりで面白く拝聴しました。個人によって多様な行動の選択があるんだなぁと再認識しました。



※写真はすべて沢部ひとみ撮影